

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」 平成25年度第3回推進会議の概要について

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」の平成25年度第3回推進会議を、平成26年2月12日(水)に開催しました。

今回の推進会議には、7名の委員のうち4名の方にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学人文部教授の朝日幸代氏にご出席をいただきました。

平成25年度第3回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、カッコ書は役職

〈委員〉

田上 至 (特定非営利活動法人ふるさと企画舎 理事長)

※田上委員はご欠席

野口 あゆみ (特定非営利活動法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター 事務局長)

李 相海 (鳥羽シーサイドホテル国際担当)

桂 三輝 (よしもと三重県住みます芸人)

※桂委員はご欠席

貫上 亨 (近畿日本鉄道株式会社 伊勢志摩事業推進部 課長)

※貫上委員はご欠席

清水 清嗣 (鳥羽商工会議所 専務理事)

稲垣 八尺 (伊賀上野観光協会 専務理事)

〈ファシリテーター〉

朝日 幸代 (国立大学法人三重大学 人文学部 教授)

〈推進会議の進行概要〉

会議の進行概要は以下のとおり

開会 10:00

課題抽出と意見交換

次の2つのテーマについて、委員から現場の声を伺うとともに、短期・中期・長期の視点から取り組む内容について意見交換

○平成25年の三重県観光の実態と評価・分析について

○平成26年の三重県観光の留意点・注力すべきこと

○平成27年以降を見据え、中長期的に取り組むべきこと

閉会 12:00



〈課題抽出及び意見交換〉

○平成25年の三重県観光の実態と評価・分析について (委員からの主な意見)

• これまでに比べて、初めて伊勢志摩に来る層が増えている。その人たちがリピーターになるかどうか気がかりである。参拝者数は、ピーク(10月・11月頃)を越えており、今後、減少することが予測されるが、今まで混雑で来ることをあきらめていた人たちにアピールすることが大切である。

• 公共交通機関で来る人が多く、交通渋滞は思ったほどひどくなかった。宿のチェックインが遅れたり、早朝参拝を希望するお客

さんへの対応などで、現場では余裕がなく、十分なサービスが行き届かなかったこともあったかもしれないが、20年前のような事態は免れたのではないか。

- ホテルの宿泊客も、10月・11月がピークで、12月は減少傾向である。1月は、対前年より減っている。傾向としては、個人客が減っている。大阪方面が減少し、東京方面が増加している。また、電車で来るお客さんも増えている。

- (事務局) 宿泊数で言うと、昨年が833万人だったのが、今年はこのままいくと1000万人弱となり、約1.2倍となり、参拝者数は、対前年度比で1.76倍なので、宿泊者数は、参拝者数ほど伸びていないことになる。

⇒(委員) それでも伊勢志摩の宿は満員だった。宿泊のキャパもあるのではないか。

○平成26年の三重県観光の留意点・注力すべきこと(委員からの主な意見)

- これからは、団体より個人客が中心となる。個人客が、公共交通機関で来た場合、周りのいたいところに周れるよう二次交通の整備が必要である。

- 平成25年は「良し」として、平成26・27年をどうしていくかが大事である。国内旅行の2割増は、評価すべきだと思う。宿泊が広域化しているということと日帰り客が増えていることで総括できるのではないか。大規模・中規模の旅館は大手のエージェントが抑えるので、ネット型のエージェントを見ると、答志島の宿(14軒)では60%増、相差の宿(47軒)では、28%の増加である。遷宮のお客さんがそういうところにも流れたということができないのではないか。

- 海女の文化を守ることが大事である。

しかし、伊勢志摩でもなかなか本物の海女を見ることができない。御潜(みかつき)神事やしろんご祭りなど、伝統的な祭を通じて、本物の海女を見ることができるので、そのような祭りをもっとPRすべきである。もっと目に見える形で発信していく必要がある。東京や大阪は便利で、買い物目当てで外国からも人が来るが、田舎は、風景や体験など感動してもらうことが大事である。

- 公共交通機関の利用は荷物がネックになっている。荷物の搬送サービスのシステムがあれば行動範囲が広がる。荷物を車内の席に置いてトイレに行くのには不安がある。公共交通機関の利用を促進しようとするならば、そういう不安を解消するシステムが必要である。最近、伊勢市駅前の観光案内所でも荷物を預かったり、旅館まで搬送するサービスを行っている。



○平成27年以降を見据え、中長期的に

取り組むべきこと(委員からの主な意見)

- 世界の人びとを呼び込むために、国際化に向けた環境基盤整備が大事である。海外誘客については、高山が特に進んでおり、10年前に比べると伊勢志摩はかなり差を付けられた。中部圏で取組んでいる昇龍道が、近い将来400万人の目標設定をしている

が、三重県はどのくらいの目標設定をするのか。エリア的には、高山の一人勝ちの状況で、高山を中心に金沢や能登の方へ向いている。高山のこの10年間の取組を評価・分析して、三重県もインバウンドに取り組むべきである。伊勢志摩としても、外国人を受け入れるためには、宿泊形態から見直す必要がある。

- （委員）中部運輸局の人との話の中で、中部圏は、東京や大阪に比べてMICE（国際会議や研修旅行等、多くの集客交流が見込まれるイベント）が少ないという話があった。もっと積極的にMICEを誘致したり、他地域のMICE情報を収集し、情報を流してもらう仕組みがあればいいのではないか。そういう情報があれば、事前に観光パンフレットを送付するなどして、観光地にも足を延ばしてもらえないのではないか。

⇒（事務局）これから国体やオリンピック、その前に全国菓子博など予定されているので、この機会を有効に活用していきたい。また、平成33年にワールドマスターズゲームズという生涯スポーツの国際大会の誘致も決定した。会場は関西になるが、競技だけではなく観光を楽しむことも目的とした人たちなので、誘客のチャンスである。

- 東京オリンピックも東京だけで受け入れられるわけではないと思うので、三重にも来てもらうチャンスは大いにある。オリンピックに来た人を三重県に誘客する対策も必要である。

次回の開催予定

次回の推進会議は、来年度上期に開催予定です。

今回の会議でいただいた提案は、来年度以降の取組に反映させていきます。